


呼吸訓練機器の開発から医療費削減効果へ

県立広島大学提供
作成日 2016年2月26日
更新日

	研究者氏名 かりや あけみ 狩谷 明美	所属機関 県立広島大学 保健福祉学部	関連キーワード(複数可) 老年学、高齢社会と地域の活性化、老年看護学、QOL
	主な研究テーマ ・高齢者の看取りに関する研究 ・認知症高齢者のQOLに関する研究 ・元気高齢者の社会参加に関する研究	主な採択課題 ・基盤研究(C)平成24～27年度(配分総額:5,330千円) 課題名「地域密着型 在宅ケアの推進と看取りシステムの構築」	

① 科研費による研究成果

- 在宅での安楽な看取りを迎える為の様々なツールを開発した。
- ①退院調整連絡シート
 - ②名古屋地区緩和デイケアサロンを運営→QOLの向上
 - ③慢性腎不全患者の配食・栄養指導内容の検討
→1/Creatinin値(腎機能を示す数値)の改善と医療費削減効果が認められた。
 - ④慢性腎不全患者の維持血液透析見合わせの意思決定プロセスガイドラインを用いた事例検討
 - ⑤高齢者の呼吸訓練機器「吹き戻し」の開発・普及
→保険点数・介護点数に加算請求することが可能となり、研究成果が社会に還元された。医工連携商品として新たなヘルスケア産業の分野が生まれた。
 - ⑥訪問看護師の24時間電話相談→診療報酬加算
 - ⑦グリーフケア(死別後の悲しみのケア)の市民教育

- マスコミ取材
- ・2013年10月12日
グリーフケア市民講座
「少子高齢化多死時代と悲嘆のケアについて」
NHK広島放送局 取材・放映
 - ・2014年10月2日
吹き戻しと地域の活性化
広島テレビ「テレビ派」

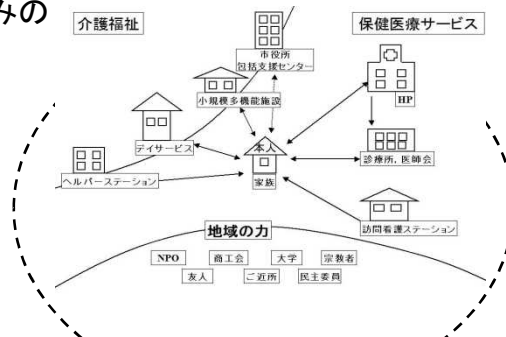


図1 終末期在宅高齢者のコミュニティ・ケアシステム

② 当初予想していなかった意外な展開

- ・終末期の質の高い看取りシステムを構築するため、「がん」「認知症」「慢性腎不全」「肺炎」患者の看取りの事例検討を行った。
- ・「高齢者」に対して、呼吸機能を看取り期まで維持する為に、伝統的玩具「吹き戻し」を用いた呼吸訓練を行った。その結果、誤嚥性肺炎予防と呼吸機能の改善が認められ、医療機関・介護福祉施設での使用が拡大した。平成26年度診療報酬の改定で加算が認められた。

http://www.pt-ot-st.net/contents2/cat_medical_treatment26/7
 摂食機能療法・経口摂取回復促進加算も改定された。
http://www.pt-ot-st.net/contents2/cat_medical_treatment26/10
 参考:「吹き戻し」
<http://www.kaigolupinus.com/hukumodosi.html>



③ 今後期待される波及効果、社会への還元など

看取り期まで呼吸機能を維持し、安楽な看取りを迎える為の呼吸訓練機器「吹き戻し」が普及し、保険点数・介護点数に加算請求することが可能となり、研究成果が社会に還元された。医療費削減効果と医工連携商品の新たなヘルスケア産業の分野としての波及効果が期待される。